

福岡県支部

農業経営におけるソーシャルメディア活用

農業の経営環境が、内・外両面にわたり大きな変化の時代を迎えている中で、環境変化に向けた新たな取組みのキーワードは、「安心・安全な食品づくり」と情報発信である。これらの課題を解決するツールの一つとなりうるのがソーシャル・メディアである。調査・研究では、フェイスブックの現状や課題を調査するとともに、農業におけるフェイスブック活用のケーススタディを踏まえて、活用のモデルを提案する。本報告書の構成は、以下のとおりである。

第1章 農業におけるソーシャル・メディア活用の必要性

農業従事者の高齢化が進み、農業は今、多くの深刻な問題に直面し、柔軟な対応と方向転換を迫られている。それは、急速に進展する IT（情報技術）の農業への導入の壁でもある。そして、消費者の食の安全に対する関心が高まり農業者にも、さまざまな情報開示が求められている今、食の安心安全情報を表示する手段として、ソーシャル・メディア活用が期待されている。

第2章 農業におけるフェイスブックの活用の現状と課題

急速に拡大しているソーシャル・メディアであるが、企業が活用するにあたっては、ソーシャル・メディアの社会的な意義、課題を理解したうえで活用することが重要である。農業におけるフェイスブック活用の背景について理解を進めるとともに、九州におけるフェイスブックの先進事例をケーススタディとして調査し、課題を探った。

第3章 フェイスブック活用のための活用モデル手法について

全国に事例を求めて検証を深め、農業におけるフェイスブック活用に向けてモデルケースを提案する。

第4章 活用推進に向けての提言

農業者の IT（情報技術）の利用では、一般的に利用者に高い専門性と幅広いスキルが求められる。そこで、IT に弱いとされる農業者がソーシャル・メディアを確実に使いこなすための仕組みを提案する。それは、農業者にソーシャル・メディアの全部を知ったうえで使用してもらうのではなく、農業者が持つ得意な分野に限定して、これを活かし、難しいところを支援サポートで補完するものである。

第5章 中小企業診断士の関わりについて

農業の分野では、一部先進事例はあるものの、ビジネス活用といった領域では、まだソーシャル・メディアの活用が進んでいない状況である。そして、農業者がソーシャル・メディアを導入するに至った場合、中小企業診断士をはじめとする専門家の役割が生まれる。

おわりに

『農業におけるフェイスブック活用の調査・研究』に取り組んでみて、あらためて日本の

農業におけるソーシャル・メディアの活用と導入の難しさを痛感した。この調査・報告書で提言した内容は、新しい IT（情報技術）であることもあって、内容の掘り下げが不十分であると感じるところも多々あるが、今後の農業者支援のあり方として、一つの提案にはなったと考えている。あらためて中小企業診断士の皆様のお役に立てれば幸いである。